

# 低山はいかい倶楽部 11月報告

〔開催日〕 2018. 11. 28 (水)

〔開催場所〕 東京都檜原村浅間尾根 人里峠～浅間嶺～時坂古道

武蔵五日市駅→(バス敷馬行き) 人里 下車 ⇒玉傳寺下広場  
⇒玉傳寺わき ⇒一軒家(休憩所) ⇒人里峠～浅間尾根～浅間嶺  
(昼食) ⇒峠の茶屋 ⇒時坂峠 ⇒払沢の滝入口 (バス)  
⇒武蔵五日市駅

〔実施概要〕 浅間尾根、浅間嶺から時坂(とっさか)古道を歩く

〔参加者〕 10名 幹事 金谷修文

上野真智子、小勝真佐枝、仲田晶子、津田 勝、田口農雄、  
瀬川真治、福田正男、家 幸夫 (敬称略、順不同)

〔報告者〕 池田良知 (21年)

〔本文〕

12月を迎えようとしている日でしたが、予報から気温の上昇が告げられる中、企画者の日頃の行いの良さが表れ、「快晴 小春日和」でした。

中央線の事故による電車の遅れなどがあり、集合場所(JR武蔵五日市駅)に気をもみながら集まりました。が、全員予定どおり勢ぞろい、9時発「敷馬」行きのバスは満員状態で出発し、道の両側が人工林の緑、紅や黄色の紅葉の織り成す中を「人里(へんぼり)」へと向かいました。

今日は、蘊蓄合戦、難読地名、準備体操のストレッチから、歩き始めの寺の日本庭園内の木々、尾根に上がっては、コナラ・ミスナラ論争、眺望では、山座同定、やれ大岳山やれ鋸岳と会話が弾みました。

まず、準備体操では、今までのゆっくり・じっくり伸ばすのがいかに間違っていたか、という説に基づき、通常とちょっと違ったストレッチを行い、登山口の臨済宗建長寺派玉傳寺の階段から歩き始めました。

住職が枯山水を整備しているところで、鐘つきの脇の見慣れない樹木「リキウバイ」について尋ね、のっけから疑問を残さず進みました。

浅間尾根に向かっただけの急坂、人家が点在し、最期の人家(最近テレビの中継があったそうです)で笹尾根を眺めながら休止。

続いて、人里峠に向けて人工林の中を歩きました。スギ、ヒノキの暗い林の中に、薄く黄色に黄葉したコアジサイが健気でした。標高をあげ、尾根に近づくと、落葉樹の雑木林の雰囲気が出始め、落ち葉を見ると、「コナラの葉だ」いやいや、「ミスナラだ」とコナラ・ミスナラ論争が始まり、結局兩種あることに落ち着きました。

浅間嶺を間近にした所で、北側斜面を皆伐しているため、対面の尾根が眺望

でき、ここで、山座同定、「あれが御前山」「こちらが鋸山、続いて大岳山」と話は尽きませんでした。

浅間嶺の展望台で昼食を済ませ、一路、時坂古道を下り、皆さん調子よくペースを進み、林道もショートカットし山道を歩み、予定より早くバス停に到着、五日市での振り返りに参加しない人がいるため、バス停で一言感想を述べ散会しました。

風景など全体には晩秋の雰囲気、木々の葉は紅葉又は落葉し、草花も枯れて休眠期に入っているようでした。その中で、リンドウ・フクオウソウの花、そして、意外と蔓性の植物が確認でき、ツルウメモドキ、センニンソウ、ヤマブドウ、アオツツラフジ（いずれも果実）また、マルバノホロシ、ミヤマフユイチゴの果実が観察できました。



登山口の玉傳寺



急坂の登り始め



コアジサイの黄葉



ツルリンドウ果実



マルバノホロシ果実



ジュウガツザクラ